

午後2時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） 質問の許可を頂きました、10番中島秀樹でございます。

子どもが転勤いたしまして、引っ越しの手伝いに参りました。初めて行く町だったんですけれども、引っ越しが一段落ついて食事に行こうと思ひまして、あっちのほう、町なかのほうなんですけれども、のほうに行けば食べる場所があるんじゃないかと思ひて、歩いて15分から20分ぐらい町を歩きました。初めて歩く町だったんですけれども、この町は息子が住む町だから、これから何度か来ると思うんですけれども、だろうなと思ひながら、いい町だなと。自分も住んでみたいなって思ひました。

それは、なぜそう感じたのかというのは、うまく言葉で説明できないんですけれども、何か行き届いているような、そんな印象を持ちました。こういう町をつくりたいんだなというのが、何となく感じられる町でした。

朝倉市に訪れた人たちが同じようなことを感じるだろうかと、そのとき思ひました。朝倉市が発展するために何をしたらいいのか、質問席より質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 朝倉市が発展するために何をしたらいいのか、通告書に従い、順番に質問をさせていただきます。

人口減少の中で人口を維持し増やすためには、対策ではなく政策という発想が重要だと考えます。対策はどうしても現実対応になって、それは目の前にある問題をとりあえず何とかしたいというような一心で取り組むような、そういった形になることが多いと思ひます。どうしても短期的な視点になってしまうのではないのでしょうか。

一方で、政策は未来志向です。政策を立てるためには、ある程度手順というのがございます。

まずは、朝倉市はどうあるべきなのか、どうしたいのか、朝倉市の目標、ビジョンというのを決めます。

そして、2番目に、あるべき具体的な姿、例えば公園に行ったら子どもがたくさん遊んでいるとか、そういった具体的な姿を決めます。これが2番目です。

3番目に、現状の分析をします。でも、実際に朝倉市の公園に行ったら、子どもが例えば全然いなかったとか、ある程度いるとか、その現状を分析します。

まず、ビジョンを決める。そして、あるべき具体的な姿をイメージする。そして、現状がどうなっているかを分析する。そして、そのためにどういったシナリオ書いて、例えば公園に、先ほど例に出しましたように、子どもがたくさん遊ぶようにするためには、どう

いったシナリオを書いたほうがいいのかという、シナリオを考えます。この1、2、3、4の、この4つのプロセスが戦略のプロセスになります。

私は、日本の将来人口は、2060年には約8,700万人弱になる。今の3分の2になるような時代ですので、朝倉市だけが増えるというのは現実的ではないかもしれません。

しかし、国も地方創生の中で、1億人は維持しようというふうに言っております。ですから、やはり次代を担う、次の世代を担う人たちがいなければ、朝倉市は持続可能な町ではなくなると思っております。

若い人ばかりに政策を集中させるというのはどうなのかなと考える部分もありますけれども、次の時代を背負う人たちがいなければ、それは町として持続可能な町ではないというふうに思います。

私、この前、隣組の役員決めに行ってまいりまして、戸数が35戸ぐらいあるんですけども、出席された方は半分、いろいろ病気をされたりとか、空家になられたりとか、そういった事情もあります。そして、来られてくる方は、当たり前ですけど、私も含めて年を取った人ばかり。若い人が非常に少ないんです。このまま大丈夫なんだろうかと、正直心配になりました。

ここで、私は何とか朝倉市が発展をするために何をしたいのか、それを考えていきたいと思っております。

まず、前提に置きますのは、朝倉市には地の利があるということをお前提に置きたいと思っております。この地の利というのは、福岡市に近いということです。鳥になって直線で行けば、約35キロ弱。車で行っても40キロ弱です。今、鳥と言いましたけれども、ひょっとしたら、これからドローンが頻繁に飛びまして、この35キロというのは非常に有利になるかもしれません。

福岡市に近いというのは、非常に私は朝倉市にとっての大きなメリット、利点だというふうに考えております。福岡市は日本一元気のある町です。150万強の人口がいる町のすぐそばに朝倉市があるというのは、私は朝倉市は条件的に恵まれているから、どっかの町と言ったら大変失礼なんですけれども、山奥にある町ではありませんので、私は朝倉市は十分チャンスがあると考えております。

若者たちが行き交う天神の四つ角、学校帰りの女子高生の姿も目立つ博多駅前広場、若い女性向けの人気店が軒を連ねる西通り、人口の増加数、増加率で政令指定都市トップを走る元気都市福岡市は、若者の多い町である。

総務省によると、2015年の国勢調査の結果を基に、福岡市が政令都市の10代、20代の人口を比較した資料によると、福岡市は10歳から29歳の若者人口が市内人口に占める割合が22.5%で、20政令都市の中で1位だそうです。10歳から29歳の若者人口が市内人口に占める割合が22.5%、4.5人に1人が若者だそうです。この若者たちが、これからもっともっと増えていくというふうに考えられます。

天神・博多地区の都市開発の動向次第では、依然として若者を呼び込み続ける可能性を秘める。昨今動き始めた天神地区の再開発事業「天神ビッグバン」、博多駅周辺の再開発事業「博多コネクティッド」では、雇用人数も増加を見込むことができます。

従来、商業情報サービスの主体の産業構造を特色とする福岡市は、一連の都市開発の発展によってさらに雇用が拡大していくと、九州一円にとどまらず、西日本一帯、さらには東アジアからも若者らが就職先として選択することも考えられます。依然として、福岡市は若者の町であり続ける可能性を秘めています。

私は先日、福岡市の不動産をちょっと調べてまいりました。そしたら、びっくりするぐらい高いです。ちょっと購入するのは無理じゃないかなと思いました。これは福岡市近辺に土地建物を求める人は、やっぱり一大決心をして建てるんだなと。これじゃあ、福岡市内に建てるというのは、ちょっと無理じゃないかなと思うぐらい高いです。中古も高いです。

そういった人たちが、私は朝倉市、1時間ぐらいで行ける朝倉市に来るということは、十分考えられるんじゃないかなと思っております。

筑前町のホームページを見まして、人口の推移を見ましたけれども、筑前町の人口の推移というのは、なだらかですけども、右肩上がりです。今度、朝倉市は、なだらかですけど、右肩下がりです。この差というのは何なんだろうと、そういうふうに思いました。

そういった中で、まず朝倉市が発展するためには、シティプロモーションが必要だというふうに考えております。シティプロモーションというのは、自治体における営業活動と言い換えてもいいと思います。

都市の魅力やイメージを効果的かつ継続的にアピールすることで、都市のブランド価値を高め、都市を発展させていく取組のこと、これは神奈川県藤沢市がシティプロモーションというふうに言っております。

次に、町の魅力を市内外にアピールし、人や企業に関心を持ってもらうことで誘致や定着を図り、将来にわたる町の活力を得ることにつながる活動、これが埼玉県戸田市です。

私は、まずは、いろいろシティプロモーションというのは、観光客を呼んで交流人口を増やすとか、そういった手順があるんですけども、まずは朝倉市の認知度の向上を図ることが最優先だと考えております。自分たちの自治体の存在を知ってもらわなければ、観光にも来てくれないし、引っ越しにも来てくれません。つまり、何も始まらないと思います。

うちの会社は売り込む商品が明確でないのに、営業に頑張っている。何もない状態で、シティプロモーションを推進しているのだから、当然成果は上がらない。まずは、何を認知してもらうのか。朝倉市は何を認知してもらうのか。朝倉市というのを認知してもらうために、何を売りにするのか。これをお尋ねしたいと思います。じゃ、市長お願いします。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 朝倉市では、令和2年3月に、戦略プランを立てております。その中におきまして、基本目標1「特色を活かしたしごとができる」という項目を設けておりまして、この中に、秋月、三連水車、原鶴温泉などの一つは観光資源。バサロ、三連水車の里、これは農産物の販売所。高速道路が3か所。高速道路のインターチェンジですね、失礼しました。これが3か所。甘木駅を起点とする鉄道。こういったものを特徴として記載をしているところでございます。

それぞれの、今申し上げましたように、農産物の販売所とか交通のアクセスを考えたこととか、そういったことを一つの特徴として記載をしているところでございます。よろしいですか。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、観光と、それから農産物の販売所、それから高速のインターが3つある。それから、甘木駅の交通のアクセスの便がいいという、これらを認知してもらいたいというふうに言われたんですけども、4つでは、ちょっと私は多いのかなと。

やっぱり、まずは1つ何か絞るべきではないかなと思いますが、これは市長でも結構ですし、担当課でも結構なんですけど、どれか1つに絞ったほうがイメージがしやすいんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 1つに絞るということが、インパクトも強いだろうし、印象づけることにも効果があるんだろうというふうにお考えかというふうに思います。

確かに、そういった面もございましてけれども、ほかに観光的な名所、交通アクセス、ほか、それぞれの分野、歴史文化の優れたところもございまして。こういったことを複数組み合わせることによって、今のところ情報を出しているということでありまして、朝倉市の懐の深さとか、そういったことを考えると、そういったことが有効ではないかなというふうに考えているところであります。

その中で何かと、あえて言わせていただきますならば、私はやっぱり水だろうというふうに思います。これは3つのダムがございまして。清流の里と言ってもいいと思います、秋月がございまして。水の文化村は、まさしくある面では、そのものというふうに捉えているところでございまして。

それから、原鶴温泉。これも水に大いに関係がございまして、筑後川、それから筑後川から水を引きます山田堰、三連水車。そして、議員の地元になろうかと思いますが、スイゼンジノリと。

そういったことも含めて、一つ水といったことをしっかりと、これは構成をしながら、プロモーションの仕方いろいろ考えながら、情報を発信するなり、来ていただいてリピーターを増やすと。いろんな形でやっていくということが、一番いいのじゃないのかなというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、新しく、水というふうに出ました。ダム、清流、水の文化村、原鶴温泉。それから、筑後川、スイゼンジノリ。これらが挙げられたんですけれども、私も、人間覚えられるのが大体3つまでというふうに言いますので、なかなか絞るの大変だと思うんですけれども、絞られたほうがいいのではないかなと思っております。

プロモーションの動画を見させていただいたんですけど、移住の。たしか、ダムは出ていないんじゃないかなと思います。

ですから、ある程度絞ってやっていったほうがいいのではないかなと思いますが、では、私は絞ったほうがいいというふうに思っております。

では、これをどうやって、今、水であったりとかバサロとかの、それから三連水車の里であったり、農産物の販売所とか、こういったものをどうやって認知してもらおうとお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 先ほどいろいろと言いました。ほかに、まだやっぱりキンビールとか、だんごあんとか、水に関することは多いんですけれども、議員が今、御指摘を頂いていますように、3つが限度じゃないかなということで考えますと、目的によって、水に関係する産業とか、あるいは水に親しむとか、水で学習するとか、そういったことを1個とか2つを組み合わせる。あるいは、3つ、4つ組み合わせると。

そういったことで、これ方法の問題になろうかと思えますけれども、今、あれを見ていただいたと、動画を。おっしゃっていただきましたけれども、若い人向けとか都会向けとか、そういう年代とか階層とか、そういったことをきちっとやって、そして情報発信は、それらのICTを使いますと、費用もそんなにかからないということもあります。

そして、そのときそのときにタイムリーに行っていくということも必要でありますので、組み合わせることによって、議員がおっしゃいますように、これもあれもということではなくて、情報発信を的確にやることによって、朝倉の知名度を上げていく等をやりたいというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） ICTを使ってということで、どうやっての部分が出たんですけれども、動画を見ましたらば、確かに水のシーンは多いのかなと。清流とか、そういったのが朝倉市のイメージではないかなと言えます。思いました。

キンビールであったりとか、だんごあんも、やはり水という関連じゃないかというふうに、市長のほうから追加でございましたけれども、市長のほうから提案がありましたように、私はずらずらっとダムから始まって最後のだんごあんまで、今、9つ、市長のほう、ずらずらっと挙げられたんですけど、9つというのはやっぱり覚えにくいですので、やっぱり例えば食では、そこにキンビールがぶら下がるとかいうような、ある程度整理

して3つぐらいに絞ったほうが、朝倉市の認知を上げるためにはいいのではないかなと。そういうふうに水ということに関しては、水で行くのであれば、そうしたほうがいいのではないかなと思っております。

では、朝倉市の認知を上げるためには、やっぱりそれをどれくらい認知されているかというのを、福岡市の人たちにアンケートを取るとか、そういったことをするとかいう方法もあると思いますが、それはなかなか現実的ではありませんので、私なりに考えてみますと、朝倉市のホームページのトップページのアクセス数の数字とかをある程度把握すれば、朝倉市がどれだけ見られているとか、そういったことが傾向として分かるのではないかなというふうに考えました。

これは先日テレビを見ておりましたら、東京の日比谷高校の校長先生が、日比谷高校のホームページのアクセス数を毎朝チェックしていると。それで、日比谷高校がどれだけ世の中から認知されているかというのを傾向をつかんでいるというのを見まして、ああ、朝倉市も同じじゃないかなというふうに考えました。

今、動画もせっかく立派な動画ができましたので、動画のアクセス数とかでも、ある程度傾向がつかめるのではないかなと思いますが、動画はできたばかりですので、難しいと思います。トップページのアクセス数の推移というのは、どのようになっていますでしょうか。どのような傾向がありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） ホームページのアクセス数でございますが、各事項のアクセス数は、この1年間で約44万件あります。分野別では、コロナ関係が一番多くて33.4%、観光・文化・イベントが13.9%、それ以下は、暮らしの受付、入札情報、広報などが続いております。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、総務部長がおっしゃられたのは、どこかの時点で切ったときの件数だと思うんですけども、アクセス数の傾向と言いますか、例えば、1年前と比べてどうなっているとか、5年前と比べてどうなっているとか、こういったものというのとは分かりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総合政策課長。

○総合政策課長（佐々木哲治君） 1年前と比較いたしまして、ほぼ同じような状況でございます。コロナのアクセスがちょっと多くなっているというのが特徴的だと思っております。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） コロナという特殊事情があるにせよ、朝倉市のホームページを見ていただけるというのは、非常に私はいいいことではないかなと思っております。

コロナの情報だけ見て、ページを閉じる方もいらっしゃるかもしれませんが、ほ

かの情報もついで見られる方もいらっしゃるのではないかと思いますので、これは一例で出しましたけれども、アクセス数とかを、コロナその前と比べたりしたときにどうなのかとか、コロナが落ち着いてから、これから、コロナで一時的に膨らんであるのであれば、減少していくような形になるんでしょうけれども、これがずっと維持できるようであれば、私は朝倉市の認知というのは、一つホームページが判断基準の一助になるというふうに考えております。

コロナ前のアクセス数というのは分かりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総合政策課長。

○総合政策課長（佐々木哲治君） 先ほど1年間で44万件と申しました。コロナがなかったときにつきましては、おおむね30万件でございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 30万件と44万件ですが、14万件増えておりますので、これがコロナだけのものなのか、これからどうなっていくのかというのは、私も注視したいと思えます。

次に、シビックプライドが大切であるということ述べさせていただきます。

シビックプライド、横文字ですけども、市民の誇りみたいな、直訳するとなるんですけども、現在生活している住民が地元地域に愛着心を持つことが重要であると、そういう考え方です。

地元地域に愛着心を持てば、市外の転出も少なくなり、来訪者の中から定住を希望する人も出てくるだろうと。これは足利市が上げているんですけども、市民のシビックプライドの意識が高まれば、市外への転出も少なくなり、来訪者の中から定住を希望する人も出てくると。足利市がこれを上げて、シビックプライドというのを大事にしていると思っております。

私も、朝倉市民は朝倉市に愛着を感じていると思いますが、何に愛着を感じているんだろうというのが明確になっていないのかなと。もうちょっと分かりやすいほうがいいのかなと。複数、懐の深さとかいう言葉もございましたけれども、いま一つ具体的なイメージが湧かないんですけども、朝倉市民は何に愛着を感じているというふうに、市役所のほうでは分析をしていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 4年前の市民アンケートを基にお話をさせていただきます。

「朝倉市に愛着を感じますか」との問いに、「とても愛着を感じる」が17.9%、「どちらかといえば愛着を感じる」が55.3%、2つを合わせますと73.2%の市民に愛着を持ってもらっております。

また、別の質問で、「朝倉市は住みやすいですか」との問いには、「住みやすい」が47.8%、「住みにくい」が18.5%、「どちらでもない」が33.6%という回答結果であり、

「住みやすい」と回答を頂いた市民に、複数回答でさらに住みやすい理由を問いますと、1位は同率で2つ、54.3%で、「緑や自然環境が豊かであるから」と「買物が便利だから」でありました。3位は45.2%で、「近所付き合いや人間関係がよいから」でありました。

さらに、別の質問で、「これからも朝倉市に生涯住み続けたいと思いますか」との問いに、「住み続けたい」が42.3%、「どちらかといえば住み続けたい」が40.7%で、2つを合わせますと83%の市民に、住み続けたいと仰いでいます。

その方々に複数回答で理由を問いますと、1位は69.2%で「土地や家屋があるから」、2位は64%で「家族や親しい友人がいるから」、3位は35.5%で「町に親しみや愛情があるから」と仰いでいます。

このようなことから、個人的な見解を回答させていただきますと、朝倉市民の人のよさや、家族や地域でのコミュニティ、また、自然、緑、水などに愛着があるのではないかと仰いでいます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 自然とか人のつながりとか、こういったものに愛着があるということだと思えます。

それと、おもしろいなと思ったのは、土地、それから建物、家屋があるからということが上がりましたので、そうすると、朝倉市に土地、家屋を購入すると言いますか、すると、愛着が出ると言ったら変なんですけども、多分、自分で多分そこに家を建てたりとか不動産を買ったりしたら、当然その土地が好きで買うわけですから、愛着が出るし、住んでみたら、より愛着が湧くのかなと。

だったら、そこで不動産とか家を建ててもらおうという、そのタイミングというのは、非常に大事なタイミングではないかと、今、お話を聞きながら感じました。

そういった中で、「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」、これは第2次総合計画の目指すまちの姿、将来像を表していると思うんですが、人とか自然とか歴史、これはやはり僕は共有でイメージを、職員の皆さんでイメージをしとったほうがいいのかと思います。人というのは、人のつながりなんですか。自然というのは、緑ですかね。歴史というのは何を意味しているのか、ここら辺の何か解釈と言いますか、何を意味しているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 第2次朝倉市総合計画の基本構想で、「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」を目指すべきまちの姿（将来都市像）としております。

少し長くなりますけれども、その部分、14ページを読ませていただきたいと思えます。

「朝倉市にとって、水は貴重な地域資源であり、市民の暮らしに多大な恩恵をもたらす存在です。また、朝倉市の山間部を源流とする水の流れは、筑後川、そして有明海へと流

れ、市内だけにとどまらず、流域に豊かな恵みをもたらし、多くの人々の暮らしに潤いをもたらしています。

一方で近年の豪雨災害等、時として水は脅威となり、大きな被害をもたらすことがあります。古くから、豊かな自然とそこに暮らす人々によって育まれた豊富で良質な水を活かし、大切にし、水とともに朝倉市は発展してきた歴史があります。

その水に加え、朝倉市には恵まれた豊かな自然環境、美しい景観、地域に根付く多種多様な歴史・文化といった多彩な魅力があります。

それらを磨き、組み合わせ、より一層輝くまちの姿に朝倉市に住む人・訪れる人が心地良さや安らぎを感じ、住み続けたい、住んでみたいと思うまちを目指します。

あわせて、朝倉市が甚大な被害を受けた「平成29年7月九州北部豪雨災害」からの復旧・復興を経て、被災前よりも全ての世代に元気と笑顔があふれ、再び輝く朝倉市を目指すという想いも込め、「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」を目指すまちの姿とします。」と記述しております。

この第2次朝倉市総合計画は、平成29年7月九州北部豪雨災害後の平成30年度末に、議会に特別委員会を設置していただき策定しております。大災害後であったため、特に「再び輝く」など、災害からの復興を目指した表現となっております。

個々に、人や自然、歴史、水ということではなく、朝倉市の人々、朝倉市の豊かな自然、朝倉市の伝統文化、これらを織りなし、組み合わせることにより、水とともに再び輝く朝倉市を将来目指しましょうというメッセージ、方向性であり、それを具体していくために、9つの基本目標、29の施策、111の基本事業を展開するようにしております。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 水というのは、朝倉市のキーワードだというふうに思いますが、冒頭で申し上げましたように、将来の政策を考えるに当たって目標とかビジョンというのは、私は大事と言いますか、これをまず一番最初に決めないといけないと思います。

その中で、今言っております「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」というのは、これは一つのビジョンであったり、目標を表す言葉だと思っておりますので、だったら、これについて職員の皆さんが明確なイメージと言いますか、水ってこういうことだよ、自然ってこういうことだよ、歴史ってこういうことだよ、ということ、ビジョンとして共有できていないと、なかなか政策というのは統一感がないのではないかとこのように思っております。

ここの「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」という、これ抽象論になって申し訳ないんですが、ここら辺のビジョンの共有というのができていますでしょうか、再度お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） ビジョンの共有につきましては、総合計画ができてから、職員なりに研修なり勉強会をさせておりまして、そこでできているとは思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 繰り返しになりますけども、ビジョンとか目標というのは、非常に政策の統一感を持たせるために大事ですので、この部分というのは、やっぱりたくさん、何というんですか、物事を羅列してたくさん上げれば、幅広く網羅できるんですけども、ある程度整理をして掲げたほうが共有しやすいのではないかとこのように思っておりますので、研修とかで、ぜひともそこら辺の統一感というのを図ればというふうに思っております。

次に、人口増加のために社会増を目指す、の質問をさせていただきます。

社会増の実現は、まず人口増加には、亡くなる方よりも生まれる方が多いという自然増と、転出する人よりも転入する人が多いという社会増、この2つから成り立っています。自然増と社会増で人口増加というのが図れるわけですが、なかなか今、少子高齢化の中で自然増というのは難しいですので、私は人口増加のために社会増に取り組んでいくべきだと考えます。

社会増の実現は、既存の住民を対象とするか、潜在の住民を対象とするかという2つしかありません。

現在住んでいる住民、要するに既存の住民を対象に、転出を抑制する。要するに、朝倉市から出ていかないでくださいと。朝倉市にとどまってくださいという方法が1つですね。

それと、次に、今後、朝倉市に住む可能性のある住民——これ潜在住民と言いますけども——に将来転入してきてくださいというお願いをして転入を促進する。

既存住民と潜在住民のアプローチの仕方があると思いますが、まず、今、朝倉市に住んでいる住民を対象に転出を抑制するという事は、これは守りの面でも大事だというふうに思っていますが、朝倉市の政策の中で、どのように転出を抑制していますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 日本全体で人口減少が進み、過疎化する市町村が増える中、人口減少対策は簡単なものではないと思っております。

朝倉市の人口減少対策の取組は、第2期朝倉市総合戦略を令和2年3月に策定し、取組を進めておるところでございます。

議員質問の件は、総合戦略の基本目標の2「朝倉市へのひとの流れをつくる」の中で触れられており、大学等の進学や就職を迎える10歳代後半から20歳代の転出が顕著であり、近年、30歳代の転出も増加傾向にあるという分析をしております。

また、市内在住の就職者・通学者のうち約3割が、他市町村へ通勤・通学している実情を踏まえ、パークアンドライドの充実などの都市部への交通アクセスの向上、交通利便性

のPR等により、定着促進を図ろうとしております。そのため、駅、バス停に、駐車場、駐輪場などの整備を進めております。

さらに、交通アクセスの向上を目指すとともに、交通利便性のPRを進めていくことなどで、転出の抑制を進めていきたいと考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 若い人たちが就学のためとか就職のために、二、三十代の人が出ていってしまいますので、交通のアクセスをよくして、要するに朝倉市から転出しなくても、十分通えますよと。そういったことをおっしゃられたというふうに思います。

それ以外には何かございますでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 転出を抑制するための、ほかに策はないかということですが、転入増とするために、対象とするターゲットを絞るとか、そういうことができればいいのではないかと考えますが。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、総務部長がおっしゃられたように、人口減少社会の中で人口を維持するというのは非常に難しいですので、先ほどから出ているように、やっぱりいろんなメニューを用意して複合的にやっていかないと、一本足打法と言いますか、一本ではなかなか、交通アクセス一本だけでは厳しいというふうに思います。

ですから、そういった転出を抑制するメニューというのをある程度、私は整理しておくべきではないかなと思います。多分ほかにもいろいろ、子育て支援であったりとか、そういったものがあると思いますので、整理のほうをされとったほうがいいというふうに考えます。

では、次に、今後住む可能性のある潜在住民を対象に転入を促進する、要するに、将来朝倉市に住んでくれるような人を対象に、来てくださいと。そういったことを私はしたほうがいいというふうに考えております。

このためには、対象となる層、どういった人たちを対象とするかというのをしっかりと絞り込み、的確に政策を展開していけば、成果は必ず出てくるというふうに、人口が増えている、例えば流山市、千葉県の流山市であったりとか、宝塚市であったりとか、こういったところの本を読みますと、必ず政策をきちっと打てば、成果は出てくるというふうに書いてあります。

私は、まず朝倉市にとっては、新たに人口を獲得していかないといけないわけです。転入を促す地域というのは、どこら辺の人を考えていらっしゃるのでしょうか。多分、北海道から人を転入を促すとか、そういうことは考えていらっしゃると思います。どこから転入を促すべきというふうにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 全世代、様々な地域から多くの方に移住してもらいたいというふうには思っておりますけれども、この件につきましても、総合戦略の中では、同じ基本目標2の中で触れております。

朝倉市に通勤する人の約4割が他の市町村在住者でありますので、それらの人を主要ターゲットとして施策を展開し、魅力を感じてもらい、効果的にPRすることで、移住を促進する旨を記載しております。

しかしながら、市内に通勤する約4割の方以外でも、九州で人口が増加している福岡都市圏に、朝倉市は通勤通学が可能な立場であることから、福岡都市圏の若い世代や子育て世代をターゲットとしていくことも転入増に結びついていくのではないかと考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） まず、今2つ出まして、1つは朝倉市に通勤をされる方をターゲットとする。それから、次に、福岡都市圏の若者をターゲットにするというふうにお話がありました。

私も先ほど冒頭に述べましたように、福岡市というのは、若者をこれからどんどん集めていきますので、本当は福岡市に土地建物が買いたいんだけど、なかなか物件がなかったりとか、非常に需要が高くて、値段が高くて手が出ないというような人たちが、朝倉市に家を構えようと、朝倉市がいいところだったら構えようというのは、私は十分あり得るのではないかとこのように考えております。

前回の公示地価、これは福岡市は商業地、それから住宅地共に全国1位でございます。たしか全国のベストテンの中に8か所が福岡市だったような記憶がありますが、それぐらいの勢いで需要が高まっておりますので、朝倉市の転入を促す住民層というのは、私は福岡市辺りで家を買えなかったような若い人たち、しかも、先ほど部長がおっしゃいましたように、土地建物を買うときのタイミングをうまく捉えれば、私は朝倉市に家を建ててしまえば、そこに地元へ愛着が湧くわけですから、可能性があるのではないかとこのように考えます。

では、次に、部長がおっしゃられましたように、そういったターゲットをある程度決めて、どうやってその人たちに政策と言いますか、アプローチをしていくというふうにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 今年度から、移住定住促進や地域活力を事業化する取組を拡充するため、首都圏から地域おこし協力隊員が着任し、活動しております。移住の視点でホームページの作成やパンフレットの作成、全国で販売されている移住に関する書籍に広告記事の掲載、移住定住関連サイトでの広報等に取り組んでおり、積極的に情報発信を行っております。

また、先ほどより回答しておりますように、今年度は移住定住のプロモーション動画を作成しており、今月からSNSや動画配信サイトを活用した広告を行い、より広範囲に情報を発信しております。

この動画は、水をテーマに朝倉市の様子と、そこで暮らすことの魅力を主に子育て世代に向けて発信する暮らし編と、朝倉で働くことをテーマにしました産業編の2編あります。見た人に、住んでみたい、住み続けたいと思っていただけるメッセージ性のある映像で、魅力を伝えております。

こうしたウェブ広告は、地域の年齢の対象を絞ることが容易であります。今後も戦略的にアプローチを続けていきたいと考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） ウェブ広告、非常に動画はよくできていらっしゃって、いい動画だなというふうに思うんですが、ウェブ広告を流すということと、それと書籍とかがありました。地域おこし協力隊の何か書籍という言葉が出ましたけども、これは書籍はどういったものがあるんでしょうか。

私ちょっと目に触れたことがないと言いますか、見たことがないんですけども、どういったことしているか、もう少し教えていただければと思います。

○議長（半田雄三君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（時津美穂君） 「田舎暮らしの本」というのがございまして、全国的に移住を考えている方が一番目にされる本でございまして。

ちょっとこれコピーなんですけども、この中に朝倉市の特集を組ませていただいて、3ページほど特集を組ませていただいている書籍でございまして。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） その「田舎暮らしの本」というのは、すみません、ちょっと私、聞き逃したかもしれません。どこで手に入るというか、若い人たちは接することがあるのかを再度お尋ねします。

○議長（半田雄三君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（時津美穂君） 普通の書店には売っております。もちろんインターネットでの購入もできると思っております。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 繰り返しになりますけれども、若い人たちが家を買うタイミングというのは、非常に大事なタイミングではないかなと思います。

朝倉市に家を買えば多分、朝倉市からそう簡単にまた家を売却して、ほかのところに住むというのは、それはあまりないのかなというふうに思いますので、買うときのタイミング、ここは捉えるべきだというふうに思っております。

不動産、要するに業者とかのタイアップとか、住宅メーカーとかのタイアップとか、そ

ういったことというのはありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（時津美穂君） 市のほうでは、空家バンク登録制度を行っております。現在のところ空家バンクは7つ登録がありまして、甘木に5世帯、そして杷木のほうに2世帯でございます。

それで、登録者数は32名いらっしゃるんですけども、こういった空家バンクを紹介する事業としまして、朝倉市が単独でやっております空家バンクの事業と、筑前町と合同でやっております空家バンクの相談会。それと、県のほうで一緒に実施をしております相談会がっております。

そういったところに、いろんな方に来ていただいて、朝倉市の魅力を知っていただくのが一番ではないかと思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 空家バンクをもっと膨らませていただいて、民間業者であったりとか県であったりとか、そういったところでの不動産業者とのパイプと言いますか、こういうのを強くしていただきますようお願いいたします。

では、次に4番目、交通の利便性を向上させるということを提案させていただきます。

私は、母都市への交通の利便性とアクセスの改善というのが大事だというふうに考えております。魅力ある福岡市に短い時間で行けるよということであれば、都会暮らしと田舎暮らしを半分ずつ楽しむとかいうことで、福岡にもすぐ行けるからということ、朝倉市の魅力が強まるのではないかと考えます。

この母都市というのは、朝倉市は久留米市もあるのかなど。福岡市も非常に魅力的ですけども、久留米市もすぐ近くにありますので、こういったこういう大きな都市へのアクセスが、今よりも一歩でも改善すれば、私は朝倉市の魅力の向上につながると思っております。

今、福岡市であったり、久留米市であったり、そういった都市部へのアクセスの現状というのはどうなっていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 福岡市へアクセスする公共交通手段としましては、甘木鉄道、西鉄甘木線、高速バス、路線バスの4つの手段があります。いずれの交通手段も、福岡までの所要時間は、甘木からおおむね1時間前後でございます。

新型コロナ感染拡大前の公共交通機関におきます1日当たりの運行便数及び乗降者数は、甘木鉄道甘木駅が42本で1,390人、西鉄甘木線甘木駅が38本で1,238人、バス利用者は、ICカードの利用者のみでありますけれども、高速甘木バス停が90便で約60人、甘木営業バス停が65便で約200名となっております。

利用者数の推移につきましては、令和元年度とその10年前の平成21年度と比較した場合

に、甘木鉄道甘木駅では15.6%の増加、西鉄甘木線甘木駅では14.7%減少をしております。

利便性につきましては、平成15年6月から運行を開始しました西鉄バス甘木営業所発の博多行きが、運行当初より運行便数が微増しております。ほかは、コロナ禍の関係で減便を除き、ほとんどが変わっていないところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 朝倉市は鉄道が2本通っておりまして、高速道、インターもあって、高速バスもある。それから、あれ400番ですか、甘木営業所から直で博多駅まで行く、都市高速を使ったバスもあります。非常にアクセスがいいと思いますので、これは非常に、よその都市にはない、朝倉市の強みだと思っておりますので、ここの部分は伸ばしていくべきだというふうに考えております。

そういった意味で、私はもう一段階利便性を上げられないかなというふうに思っているんですが、そういった中で、例えば、昔、バスは急行バスというのが西鉄あったんですけども、止まる駅が少ない。ああいったのがあると、非常にアクセス時間を短縮することができるんですけど、こういった急行バスの復活とか、こういったことは考えられませんかでしょうか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 防災交通課長。

○防災交通課長（浦塚武実君） バスにつきましては、今おっしゃられたことは、以前確かにございました。私どもも、民間事業者が運行するものでございますので、今後そういったことができるのかできないのか、ちょっと研究をするなり、事業者のほうから聞き取りをするなり、そういったことをしたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） すみません、ちょっと時間が少なくなっていましたので、途中で切れたらいけませんので、ちょっとここで終わりにしたいというふうに思っています。

あと、これ、すみません、また続きを次の議会でさせていただきたいんですけども、甘鉄の小郡駅の高架化と言いますか、もっと短時間で乗換えができるような、そういったことがもし実現できれば、もっと私、甘鉄周辺にも家が建って、鉄道事業者にもメリットがあるのではないかなというふうに思っております。

費用的にはどれくらいかかるのか分からないんですけども、そういったことができれば、甘鉄の利用者とかがもっと増えるんじゃないかなと。乗り換えるときに、階段下りて、また階段上って行ってというのが、非常に私ちょっと面倒くさく感じますので、そういったことができたならなということを考えております。これはすみませんが、次の議会のときに、もう一度ちょっと質問させていただきたいと思っておりますので、時間配分が悪くて申し訳ありません。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（半田雄三君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。
暫時休憩いたします。午後3時20分に再開いたします。
午後3時9分休憩